CAMEDIA

OLYMPUS

デジタルカメラ

X-2

取扱説明書

■ご使用前にこの取扱説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。

■取扱説明書で使用している画面やカメラのイラストは、開発中のものです。実際の製品とは異なる場合があります。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目　次

1　準備　21

2　メニューのしくみ　31

3 撮影の基本 38

4 撮影の応用 59

5 画像・画質・露出の調整 73

6 再生 80

7 カメラの便利機能 94

8 プリント設定 105

9 その他 109

安全にお使い頂くために

ご使用の前に、この「安全にお使い頂くために」の内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

本製品は専用のリチウムイオン電池を使用します。電池や充電器、ACアダプタなどの機器については、それぞれの説明書を必ずお読みください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

危険　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

警告　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

☞ **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**
これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

☞ **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない。**
目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

☞ **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池やxDピクチャーカードなど小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

☞ **カメラで日光や強い光を見ない。**
視力障害をきたすおそれがあります。

☞ **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、専用のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

☞ **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。**
火災や感電の原因となることがあります。

☞ **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**
連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

☞ **分解や改造をしない。**
感電やけがをする原因となります。

☞ **内部に水や異物を入れない。**
万一、水に落としたり、内部に水が入ったときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

☞ **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**
このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

☞ **濡れた手で操作しない。**
感電の危険があります。また、充電器やACアダプタのプラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

☞ **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

☞ **温度の高い所へ放置しない。**
部品が劣化したり、火災の原因となります。また、充電器やACアダプタを布などで覆った状態で使用しないでください。熱が発生し、火災の原因になります。

☞ **専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。**
カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また専用のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

☞ **カメラの外装の金属部分に、長時間触れない。**
- 長時間お使いになると、カメラの温度が高くなります。金属部分に皮膚が触れたまま長時間使用を続けると、低温やけどを起こすおそれがあります。
- 低温下にさらされていると、カメラの外装も低温になります。低温やけどを防ぐため、できるだけ素手で扱わず手袋などをご使用ください。

☞ **充電器やACアダプタのコードを傷つけない。**
充電器やACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ずプラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- 充電器やACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - ■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - ■砂、ほこり、ちりの多い場所
  - ■火気のある場所
  - ■水に濡れやすい場所
  - ■激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラの電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危険

- 電池は、専用の当社製リチウムイオン電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用·放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や内容物の飛散の原因になり危険です。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 専用の充電器で指定のリチウムイオン電池以外の電池を充電しないでください。火災やけがのおそれがあります。
- 充電器が所定の充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- リチウムイオン電池の外装にキズや破損のあるものは使用しないでください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注 意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。使用できる機種については、カメラの取扱説明書でご確認ください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。
- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。**

液晶モニタとバックライトについて

**本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。**

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

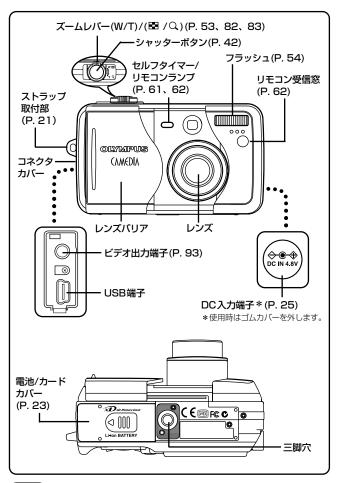
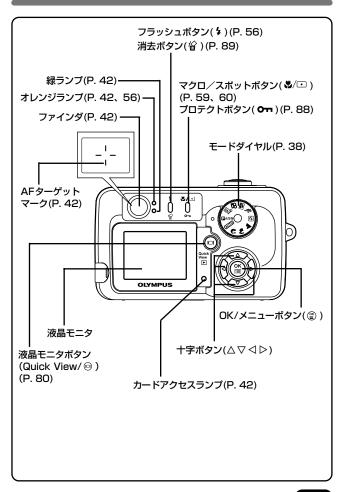
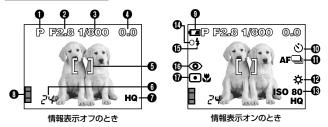
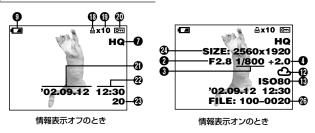
各部の名称

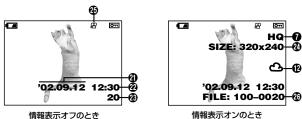
＊使用時はゴムカバーを外します。

フラッシュボタン(ϟ)(P. 56)
消去ボタン( )(P. 89)
緑ランプ(P. 42)
オレンジランプ(P. 42、56)
ファインダ(P. 42)
マクロ/スポットボタン(/)
(P. 59、60)
プロテクトボタン( )(P. 88)
モードダイヤル(P. 38)
AFターゲット
マーク(P. 42)
Quick
View
OK
OLYMPUS
A/S/M
AUTO
OK/メニューボタン( )
液晶モニタ
十字ボタン(△▽◁▷)
液晶モニタボタン
(Quick View/)
(P. 80)
カードアクセスランプ(P. 42)

液晶モニタの表示

撮影モードのとき

情報表示オフのとき　　情報表示オンのとき

再生モード（静止画）のとき

情報表示オフのとき　　情報表示オンのとき

再生モード（ムービー）のとき

情報表示オフのとき　　情報表示オンのとき

情報	表示例	参照頁
❶撮影モード	AUTO、P、A、S、M、MY 、、、、、、	P. 38
❷絞り値	F2.8～F8.0	P. 48、50
❸シャッター速度	8～1/1000	P. 49、50
❹露出補正 露出レベル	－2.0～＋2.0 －3.0～＋3.0	P. 77 P. 50
❺AFターゲットマーク	[ ]	—
❻撮影可能枚数／ 撮影可能秒数	24 24"	P. 46 P. 51
❼画質	TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P. 73
❽メモリゲージ	、、、	P. 19
❾電池残量	、	P. 19
❿セルフタイマー／ リモコン		P. 61 P. 62
⓫ドライブモード	、AF、BKT	P. 64
⓬ホワイトバランス	、、、	P. 78
⓭ISO感度	ISO80、ISO160、ISO320	P. 76
⓮緑ランプ	○	—
⓯フラッシュ発光予告		P. 56、57
⓰フラッシュ	、、、SLOW、 SLOW	P. 56
⓱スポット測光／ マクロ	、、	P. 59、60
⓲プリント予約		P. 107
⓳プリント枚数	x2～x10	P. 107

情報	表示例	参照頁
⑳ プロテクト	[O‐π]	P. 88
㉑ 日付	'02.12.24、'03.01.12	P. 28
㉒ 時刻	07:15、12:30、17:45	P. 28
㉓ コマ番号	20	―
㉔ 画像サイズ	2560x1920、1600x1200	P. 73
㉕ ムービー	🎥	P. 85
㉖ ファイル番号／撮影時間	FILE: 100-0020 0"/15"（ムービー再生中） 0" / 15" 再生している秒数　全体の秒数	―

重要！DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

注 意

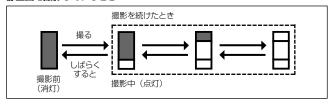
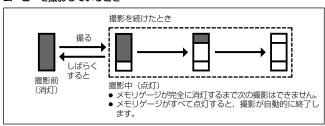
- 液晶モニタの表示内容は、カメラの設定により異なります。
- 液晶モニタに表示される情報量は、選択することができます。(P. 98)

メモリゲージについて

撮影すると、メモリゲージが点灯します。点灯中はカード（xDピクチャーカード）への記録を行っています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。メモリゲージがいっぱいになったときは、しばらく待ってから撮影を再開してください。

静止画を撮影しているとき

ムービーを撮影しているとき

- メモリゲージが完全に消灯するまで次の撮影はできません。
- メモリゲージがすべて点灯すると、撮影が自動的に終了します。

電池残量マークについて

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、電池残量表示が次のように変化します。

点灯（緑）
撮影できます。

点灯（赤）
電池の残量が少なくなりました。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。

ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが点滅
電池の残量が完全になくなりました。充電した電池と交換してください。

本書の見方

いずれかのモードに設定します。

情報表示

撮影／再生時に表示される情報の量を、「オン」「オフ」で切り替えることができます。情報が3秒間表示された後、通常画面に戻ります。実際に表示される内容についてはP. 16をご覧ください。

使用可能なモード P A/S/M My ▶

P A/S/M My：
トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「情報表示」→「オン」「オフ」から選択し、ボタンを押します。再度、ボタンを押すとメニューが終了します。

▶ モード：
ボタンを押してメニューを表示します。◁ボタンを押すと、「情報表示」が「オン」になります。

● 再生モードでは、再度ボタンを押してトップメニューを表示させ◁ボタ

メニューは矢印の順に操作します。(P. 32)

グレーに塗られているボタンを押します。（この例では上下を押します。）

静止画を撮る

シャッター速度の設定（シャッター優先撮影）

使用可能なモード P A/S/M My

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/M モード」→「S」を選択し、ボタンを押します。再度、ボタンを押すとメニューが終了します。

2 シャッター速度を設定します。
シャッター速度を速くするには△ボタンを押します。
…には▽ボタンを押し

十字ボタンのどの方向キーを押すかを△、▽、◁、▷マークで示しています。(この例では上ボタンを押します。)

△ ◁ OK ▷ ▽

ストラップを付ける

1 ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。

2 ストラップの長い方を輪にくぐらせます。

3 少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。

注 意

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。
- 手順に従って、ストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

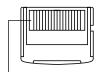
電池／カードについて

電池について

このカメラでは当社製リチウムイオン電池（LI-10B）１個を使用します。それ以外の電池は使用できませんのでご注意ください。
お買い上げの際の電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（LI-10C）で充電をしてください。専用の充電器以外は使用しないでください。詳しくは、充電器の取扱説明書（付属）をお読みください。

カードについて

このカメラでは撮影した画像をxDピクチャーカード（以下カード）に記録します。カードに記録された画像は削除したり上書きすることが可能です。また、カードに記録された画像をパソコンに転送して、加工、編集することもできます。

インデックスエリア
カードに保存されている内容をここに記入します。

コンタクトエリア（接触面）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。この部分には直接手を触れないでください。

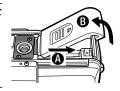
使用できるカード
xDピクチャーカード（16～128MB）

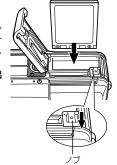
注 意

- 当社製以外のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。(P. 99)

電池・カードを入れる／取り出す

1 **カメラの電源が入っていないことを確認します。**
- レンズバリアが閉じている。
- 液晶モニタが消灯している。
- 緑ランプが消灯している。

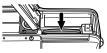
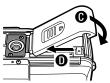
2 **電池／カードカバーを❹の方向にスライドさせて、❺の方向へ引き上げます。**

3 **■ 電池を入れる**
電池の向きを正しく合わせて入れます。
- ノブがしっかりロックされていることを確認します。正しくロックされていないと、カバーを開けた際に電池が飛び出すことがあります。

■ 電池を取り出す
矢印方向にノブをスライドさせます。電池が出てきたら、つまんで取り出します。

■ カードを入れる

カードの向きを正しく合わせて入れます。

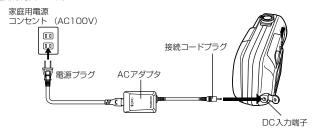
- カードが斜めに入らないようにまっすぐに押し込みます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

■ カードを取り出す

カードを一度奥に向かって押します。カードが出てきたら、つまんで引き抜きます。

4 **電池／カードカバーを❸の方向に閉じ、❹の方向にスライドさせます。**

注意

- 電源を切ってから3秒以内に電池を抜くと、マイモードに登録した内容がクリアされることがあります。
- 電池を外した状態で約3時間放置すると、設定クリアを「オフ」にしても初期設定に戻る機能があります。
- カメラ作動中やパソコンとの通信中には、絶対に電池／カードカバーを開けたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。
- 破壊されたデータの復旧はできません。
- カードを取り出す際に、カードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくように押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

別売のACアダプタを使う

このカメラは付属の電池のほか、ACアダプタ（D-7AC）の使用も可能です。画像をパソコンにダウンロードするときなど、時間のかかる作業を行うときにご利用ください。
専用のACアダプタ以外は使用しないでください。詳しくは、ACアダプタの取扱説明書をお読みください。

注 意

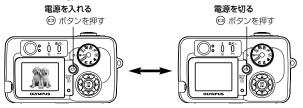
- ACアダプタを使用するときは、電池を抜いてからご使用ください。
- ＡＣアダプタをカメラのＤＣ入力端子に差すときは、ゴムカバーが挟まらないように差してください。
- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中にはACアダプタを抜き差ししないでください。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
  - 液晶モニタが点灯している。
  - 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - パソコンとの通信時。
- カメラの電源が入っているときに、電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や、機能にトラブルが生じる場合があります。
- 「安全にお使い頂くために」をよくお読みください。（P. 8）

電源を入れる／切る

撮影するとき

電源を入れる........レンズバリアを開きます。撮影モードで電源が入ります。
電源を切る............レンズバリアをレンズのところまで少し閉じます。レンズに触れる直前にカチッという感触があり、レンズがゆっくり引っ込みます。レンズが引っ込んでから、レンズバリアを完全に閉じます。電源が切れます。

再生するとき

電源を入れる ....レンズバリアを閉じた状態で ◎ ボタンを押します。再生モードで電源が入ります（液晶モニタが点灯）。
電源を切る .... ◎ ボタンを押します。電源が切れます（液晶モニタが消灯）。

注 意

- 電源を入れたままで何も操作しないと、電池の消耗を防ぐため、カメラはスリープモード（待機状態）に入ります。ズームレバーやシャッターボタンを操作すると動きます。スリープモードに入るまでの時間は、設定することができます。(P. 102)
- レンズバリアを閉じるときは、レンズにレンズバリアを強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

表示	ヒント
カードを認識できません	**カードがカメラに入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。** →カードを入れます。すでにカードが入っているときは、いったんカードを取り出して入れ直してください。
このカードは使用できません	**カードに問題があります。** →カードをフォーマットしてください。フォーマットをしてもこの表示が消えないときは、新しいカードを使用してください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット ⚠ すべてのデータが消去されます フォーマット 中 止 選択 実行 OK	**カードがこのカメラのシステムでは読めません。** →カードをフォーマットしてください。 ● フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消去されます。 ① **▽ボタンを押して「フォーマット」を選択し、OKボタンを押します。** ●「フォーマット」画面が表示されます。 ② **△ボタンを押して「フォーマット」を選択し、OKボタンを押します。** ● フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

日時の設定

カメラの日時を設定します。日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

使用可能なモード AUTO P A/S/M

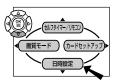
ここでは AUTO モードを例に説明します。

1 モードダイヤルを AUTO にして、レンズバリアを開きます。

- 電源が入り、レンズが自動的に前に出てきます。
- レンズが出てこない場合は、レンズバリアが完全に開ききっていません。

2 ボタンを押します。

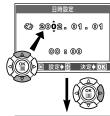
- 液晶モニタが自動的に点灯し、トップメニューが表示されます。

3 ▽ ボタンを押して、「日時設定」を選択します。

4 マークが選択されているときに、△▽ ボタンを押して日付の順序を選択します。

- 順序は
  「日・月・年」
  「月・日・年」
  「年・月・日」
  から選択します。
- この手順以降は、「年・月・日」に設定した場合の説明をします。

5 **▷ ボタンを押して、年の設定に移動します。**

6 **△▽ ボタンを押して、「年」を設定します。「年」が確定したら、▷ ボタンを押して「月」の設定に移動します。**

- 「分」までの設定を同様に繰り返します。
- ◁ ボタンを押すと、ひとつ前の数値の設定位置に戻ります。
- カメラの時間表示は24時間表示を使用しています。たとえば、午後2時は14：00と表示されます。
- 「年」の上 2 桁は固定されています。

7 **Ⓞ ボタンを押します。**

- 0秒の時報に合わせⓄ ボタンを押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

8 **電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。**

注 意

- 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。
- 電池を外した状態で約3時間放置すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日付けが解除されます。

1 準備

画面表示の言語（日本語／英語）の切り替え

液晶モニタの画面表示を英語に切り替えることができます。

使用可能なモード

■ 英語に切り替える場合

カメラの電源を入れて、 ボタンを押します。トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「言語／LANGUAGE」→「JAPANESE」「ENGLISH *」から選択し、 ボタンを押します。再度、 を押すとメニューが消えます。

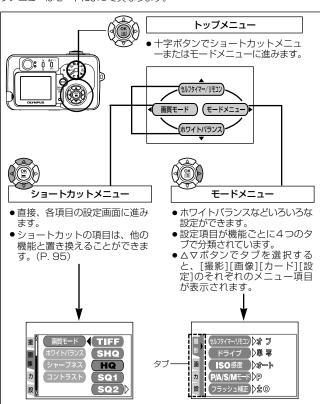
* ENGLISH＝英語

■ 日本語に切り替える場合

カメラの電源を入れて、 ボタンを押します。トップメニューから「MODE MENU」→「SETUP」→「言語／LANGUAGE」→「日本語」「英語」から選択し、 ボタンを押します。再度、 を押すとメニューが消えます。

初期設定：日本語

メニューについて

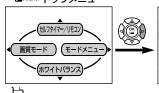
カメラの電源を入れて ㊊ ボタンを押したとき、液晶モニタに表示される画面をトップメニューと呼びます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは P A/S/M モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。トップメニューはモードによって異なります。

メニューの操作例

1 ㊙ ボタンを押してトップメニューを表示し、▷ ボタンを押します。

2 △▽ ボタンを押してタブを選択し、▷ ボタンを押します。

トップメニュー

撮影タブ

◁ ボタンを押すとタブの選択に戻ります。

画像タブ

カードタブ

設定タブ

撮：撮影タブ
ISO感度やデジタルズームなど、撮影時に使う機能。

画：画像タブ
画質モードの設定やホワイトバランスの調整など、画像に関する機能。

カ：カードタブ
カードのフォーマットなど、カードに関する機能。

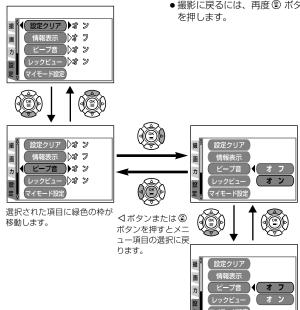
設：設定タブ
日時設定やショートカット設定など、カメラの設定に関する機能。

3 △▽ボタンを押して設定する項目を選択し、▷ボタンを押します。

4 △▽ボタンを押して設定を変更します。㊫ボタンを押すと設定が完了します。

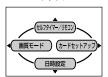
- 撮影に戻るには、再度㊫ボタンを押します。

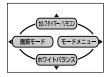
選択された項目に緑色の枠が移動します。

◁ボタンまたは㊫ボタンを押すとメニュー項目の選択に戻ります。

注 意

- カメラの状態や設定内容などにより、使用できない項目は選択できません。
- 撮影時にメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定状態で撮影することができます。
- 設定した内容を電源を切っても保持させておきたい場合は、設定クリアを「オフ」に設定してください。(P. 94)

ショートカットメニュー（撮影／再生）

AUTO トップメニュー

トップメニュー

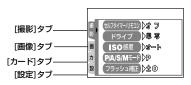
A/S/M トップメニュー

トップメニュー

トップメニュー
（静止画）

トップメニュー
（ムービー）

撮影	**セルフタイマー／リモコン**	セルフタイマー撮影またはリモコン操作をします。	P. 61、62
	日時設定	日付けと時刻を設定します。	P. 28
	デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約12倍まで）のズーム撮影が可能です。	P. 53
	画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P. 73
	カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P. 99
	ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスに設定できます。	P. 78
再生	**自動再生**	カードに記録されている画像を、連続で再生します。	P. 81
	ムービープレイ	撮影したムービーを再生します。またそのムービーのインデックス作成をすることもできます。	P. 85
	情報表示	画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P. 98
	プリント予約	撮影した画像をプリントできるように、カードに必要な情報を記憶させます。	P. 107

モードメニュー（撮影）

撮影モードのとき、モードメニューは4つのタブに分けられています。△▽ボタンを押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。撮影モードが AUTO のときは、カメラが自動で設定しているため、モードメニューはありません。

[撮影] タブ

セルフタイマー／リモコン	セルフタイマー撮影またはリモコン操作をします。	P. 61、62
ドライブ	単写・連写・AF連写・BKT（ブラケット撮影）から選択します。	P. 64
ISO感度	ISO感度を選択します。	P. 76
P/A/S/Mモード	撮影モードを**P**（プログラム撮影）、**A**（絞り優先撮影）、**S**（シャッター優先撮影）、**M**（マニュアル撮影）から選択します。	P. 40
フラッシュ補正	フラッシュの発光量を増減できます。	P. 58
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約12倍まで）のズーム撮影が可能です。	P. 53
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影ができます。	P. 70
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P. 72

[画像] タブ

画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P. 73
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスに設定できます。	P. 78
シャープネス	画像の鮮鋭度を調節します。	P. 79
コントラスト	画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。	P. 79

モードメニュー（撮影）

［カード］タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P. 99

［設定］タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P. 94
情報表示	画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P. 98
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにします。	P. 100
レックビュー	撮影した画像の記録中にその画像を表示するかどうかを選択します。	P. 101
マイモード設定	撮影機能を自由に設定して登録します。	P. 67
スリープ時間	カメラがスリープモード（待機状態）に入るまでの時間を設定します。	P. 102
ファイル名メモリー	カメラ内に自動的に記録されるフォルダ名／ファイル名の付け方を選択します。	P. 103
ピクセルマッピング	CCDと画像処理用回路のチェックをします。	P. 104
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。	P. 100
日時設定	日付と時刻を設定します。	P. 28
ショートカット設定	使用頻度の高い機能をトップメニューに登録します。	P. 95
ビデオ出力	再生に使うテレビの映像信号方式に合わせて、NTSCかPALを選択します。	P. 102
言語/LANGUAGE	画面表示の言語を切り替えます。	P. 30

モードメニュー（再生）

再生モードのとき、静止画の再生中と、ムービーの再生中では、モードメニューが異なります。△▽ボタンを押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

静止画再生時

ムービー再生時

［再生］タブ

回転表示	撮影した画像を時計回り(＋90゜)、または反時計回り(ー90゜)に回転して表示します。	P. 84

［編集］タブ

モノクロ作成	撮影した画像からモノクロ画像を作成します。	P. 91
セピア作成	撮影した画像からセピア画像を作成します。	P. 91
リサイズ	撮影した画像のサイズを変更して、別の画像として保存します。	P. 92

［カード］タブ

カードセットアップ	カードをフォーマット、またはカード内の画像を全て消去します。	P. 90、99

［設定］タブ

設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P. 94
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにします。	P. 100
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。	P. 100
日時設定	日付と時刻を設定します。	P. 28
インデックス表示	インデックス再生時、液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P. 83
ビデオ出力	再生に使うテレビの映像信号方式に合わせて、NTSCかPALを選択します。	P. 102
言語/LANGUAGE	画面表示の言語を切り替えます。	P. 30

撮影モード

撮影シーンに合わせて撮影モードを選んでください。モードダイヤルを合わせて撮影します。

注 意

- モードダイヤルを回すと、設定クリアを「オフ」にしても初期設定に戻る機能があります。

AUTO　フルオート撮影

明るさ調整やピント合わせなどのモードが自動的に選択されるので、気軽に撮影したいときに便利です。このモードではフラッシュ補正やドライブなどの特別な機能や操作を設定することはできません。一番簡単な撮影方法です。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

記念写真撮影

人物と背景を一緒に撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

風景撮影

風景を撮るのに最適です。 メリハリのあるシャープな画像になりますので、自然のなかでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

夜景撮影

夜の景色を撮るのに最適です。他のモードで輝く街の夜景などを撮影した場合、明るさが不足してしまうため、光っている点だけの画像になってしまいますが、このモードを使用すると、カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定するので、街の様子をきれいに写し出すことができます。このモードではシャッター速度が遅くなるため、撮影時は三脚などでカメラを固定してください。

スポーツ撮影
スポーツなどの動きのある被写体を撮るときに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

セルフポートレート撮影
撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。このモードでは、ズームは使えません。

動画（ムービー）撮影
ムービーを撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。

マイモード撮影
撮影の機能を自由に設定して登録しておくことができます。マイモード撮影にすると、この登録内容で動作します。設定には、絞り値やズーム位置などがあります。（P. 67）

撮影モード

PA/S/M　プログラム／絞り優先／シャッター優先／マニュアル撮影

● P　（プログラム撮影）

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、撮影します。

●A　（絞り優先撮影）

絞り値を設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。（P. 48）

絞り値（F値）を小さくする

絞り値（F値）を大きくする

●S　（シャッター優先撮影）

シャッター速度を設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。（P. 49）

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて、止まっているように撮影します。

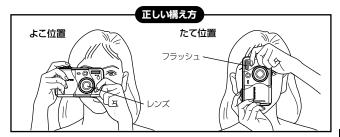
シャッター速度を遅くすると、動いているものは、ぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

●M　（マニュアル撮影）

絞り値とシャッター速度を設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。（P. 50）

カメラの正しい構え方

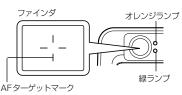
両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。たて位置で撮影するときは、フラッシュが上になるようにします

レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。

シャッターボタンの押し方

1 カメラを被写体に向けます。AFターゲットマークを被写体に合わせます。
シャッターボタンを静かに軽く押します。これを半押しといいます。

- ピントと画像の露出（明るさ）が固定されると、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

2 半押しした状態から、シャッターボタンをさらに押し込みます。これを全押しといいます。

- 撮影が行われ、カードアクセスランプが点滅します。
- モードの場合：ムービーの撮影が開始され、オレンジランプが点灯します。

ピントの合わせ方

オートフォーカス

AFターゲットマークを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯します。これはピント合わせが自動的におこなわれたことを示しています。
緑ランプが点滅したら、ピントは合っていません。その場合はフォーカスロックをしてください。(P. 44)
また、被写体まで距離が近すぎるときも、緑ランプが点滅します。そのときは、マクロ撮影をしてください。(P. 60)

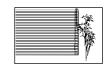
ピントの合いにくいもの（オートフォーカスの苦手な被写体）

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅することがあります。また、❹、❺のような被写体では、緑ランプが点灯し、シャッターは切れてもピントが合わないことがあります。その場合は以下の方法で撮影してください。

❶ 明暗の差がはっきりしない被写体

被写体と同距離にある明暗の差（コントラスト）がはっきりしたものでフォーカスロックした後、元の構図に戻して撮影してください。

❷ 縦線のない被写体

カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影してください。

❸ 画面中央に極端に明るいものがある被写体

被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックした後、元の構図に戻して撮影してください。

❹ 遠いものと近いものが混在する被写体

緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロックしてから元の構図に戻して撮影してください。

❺ 動きの速い被写体

あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロックしてから、元の構図に戻して撮影してください。

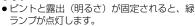
フォーカスロック（中央以外の被写体にピントを合わせる）

AFターゲットマークを被写体に合わせられない構図では、撮影したい被写体にうまくピントを合わせることができないことがあります。このような場合は次の手順で撮影をしてください。

AFターゲットマーク

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

緑ランプ

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- ピントと露出（明るさ）が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅すると、ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、緑ランプが点灯するまで、手順2を繰り返します。

シャッターボタン

3 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に戻します。

4 シャッターボタンを全押しします。

静止画を撮る

ファインダを見て撮る

使用可能なモード　AUTO　P A/S/M　My

1 レンズバリアを開きます。

2 ファインダを覗き、AFターゲットマークに被写体を合わせます。

3 撮影します。(P. 42)
- カード記録中は、カードアクセスランプが点滅します。

- 32MBカードの記録可能枚数
  画質モードがHQ（2560 x 1920）のとき：約26枚
  画質モードがSQ2（640 x 480）のとき：199枚

注 意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- 電源を切ったり電池やカードの交換を行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対に電池／カードカバーを開けたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

液晶モニタを見て撮る

液晶モニタを使うと、実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。また、液晶モニタに表示される絞り値、シャッター速度などの情報も確認できます。

使用可能なモード AUTO P A/S/M My

1 レンズバリアを開きます。

- 液晶モニタが点灯します。点灯しないときは、 ◎ ボタンを押します。

2 液晶モニタを見ながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。

3 撮影します。

- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。

ヒント

● **液晶モニタが見にくい。**
→ 晴天下のように明るい場所では、ファインダをお使いください。
→ モニタ調整で設定します(P. 100)。

注 意

●明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニタの画像にスミア（白い帯状の縞）が見られる場合があります。しかし、撮影画像への影響はありません。

ファインダと液晶モニタの特徴

ファインダと液晶モニタの特徴を理解して、上手に撮影してください。

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても被写体がはっきり見えます。電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手振れが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは、見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいときに。	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいときに。人物や花のアップなど近くの被写体を撮影したいときに。

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 図のように被写体との距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なります。

絞り値の設定（絞り優先撮影）

使用可能なモード　P A/S/M　My

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「A」を選択し、㊉ボタンを押します。再度、㊉ボタンを押すとメニューが終了します。

2 絞り値を設定します。

絞りを絞る（F値を大きくする）には△ボタンを押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▽ボタンを押します。

3 撮影します。

■ 絞り値が緑で表示される
設定した絞り値で、適正露出が得られました。

■ 絞り値が赤く表示される
設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。
▼が表示：▽ボタンを押して、絞り値を小さくします。
▲が表示：△ボタンを押して、絞り値を大きくします。

絞り値（F値）

A F5.6 1/600 0.0

HQ

ズーム位置	設定
広角（W側）	F2.8＊～F8.0
望遠（T側）	F4.8＊～F8.0

＊ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

注 意

●フラッシュがオート発光に設定されている際、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。

シャッター速度の設定（シャッター優先撮影）

使用可能なモード P A/S/M My

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「S」を選択し、ボタンを押します。再度、ボタンを押すとメニューが終了します。

2 シャッター速度を設定します。

シャッター速度を速くするには△ボタンを押します。

シャッター速度を遅くするには▽ボタンを押します。

3 撮影します。

■ **シャッター速度が緑で表示される**
設定したシャッター速度で、適正露出が得られました

■ **シャッター速度が赤く表示される**
設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。
▼が表示：▽ボタンを押して、シャッター速度を遅くします。
▲が表示：△ボタンを押して、シャッター速度を速くします。

シャッター速度選択範囲： 1/2〜1/1000（秒）
（フラッシュ[SLOW] [SLOW] 選択時: 4〜1/1000（秒））

3 撮影の基本

絞り値とシャッター速度の設定（マニュアル撮影）

使用可能なモード　P A/S/M　My

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「M」を選択し、ボタンを押します。再度、ボタンを押すとメニューが終了します。

2 絞り値とシャッター速度を設定します。

シャッター速度を速くするには△ボタンを押します。

絞りを絞る（F値を大きくする）には◁ボタンを押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▷ボタンを押します。

シャッター速度を遅くするには▽ボタンを押します。

3 撮影します。

絞り値：W側→F2.8＊～F8.0
T側 →F4.8＊～F8.0
シャッター速度：8～1/1000（秒）

＊ ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

■ 露出レベル
- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出レベルが－3.0～＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出レベルがー3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。

注 意
- シャッター速度を遅くする場合は、カメラ振れを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

ムービー（動画）を撮る

使用可能なモード [ムービーモード]

1 カメラを被写体に向けて、AFターゲットマークを被写体に合わせます。

- 撮影可能秒数の合計と [ムービー] マークが表示されます。
- ピントは、シャッターボタンを半押ししたときに決まります。

撮影可能秒数の合計

2 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。

- 撮影が始まると、連続して記録できる撮影可能秒数が表示されます。
- ムービー撮影中は、[ムービー] マークが赤く点灯します。

撮影可能秒数

3 **再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了します。**

- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。ランプの点滅中は、次の撮影はできません。
- カードアクセスランプの点滅が終わると、カードへの記録は終わりです。カードに空き容量があれば、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。
- 表示されている撮影可能秒数が0になると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

カードアクセスランプ

注 意

- 🎥 モードでは、フラッシュと光学ズームは使用できません。ズームを使うには、デジタルズームを「オン」に設定します。(P. 53)
- ムービー撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかることがあります。
- 音声は録音できません。

ズーム（望遠や広角撮影をする）

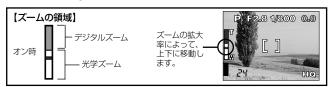
ズーム倍率3倍（光学ズーム、35mmフィルム換算：38mm～114mm）まで、望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると約12倍相当の撮影が可能です。

広角:ズームレバーをW側にしたとき　　**望遠:**ズームレバーをT側にしたとき

デジタルズーム

使用可能なモード

1. :トップメニューから「デジタルズーム」→「オン」を選択し、㊙ボタンを押します。
   P A/S/M :トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「デジタルズーム」→「オン」を選択し、㊙ボタンを押します。
   - 再度、㊙ボタンを押すとメニューが終了します。

2. ズームレバーをT側にまわします。
   - ズームバーが表示されます。
   - ◎ボタンを押すと、液晶モニタが消えてデジタルズームがオフになります。再度、◎ボタンを押すとデジタルズームがオンになります。

初期設定：オフ

注 意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなる場合があります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

フラッシュ撮影

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。フラッシュの発光量を補正することもできます。(P. 58)

フラッシュモードには、次の種類があります。

オート発光

暗いときや逆光のとき、自動的に発光します。

赤目軽減発光 👁

本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります。

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで、約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光 ϟ

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注意

- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止 ⓧ

フラッシュを発光させたくないときに使います。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。美術館などのように、フラッシュを使えない場所や夕景・夜景を撮影するときに使います。

注 意

●暗いところの撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ ⚡SLOW ◎⚡SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では、手ぶれを防ぐためシャッター速度が遅くならないように設定されています。このとき夜景などをバックに撮影すると、背景はフラッシュの光が届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で背景を写し込むことができ、被写体と背景を両方撮影することができます。シャッター速度が遅いので、ぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

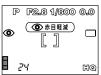
■ **スローシンクロ：⚡SLOW**
シャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）にフラッシュを発光させます。

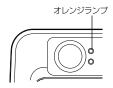
■ **赤目・スローシンクロ：◎⚡SLOW**
スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減発光も使いたいときに「赤目・スローシンクロ」を選択します。

フラッシュを使う

使用可能なモード AUTO P A/S/M My

1 使いたいフラッシュの表示が出るまで、繰り返し⚡ボタンを押します。

- 何も操作をしないで約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

2 撮影します。

- フラッシュが発光する前に、オレンジランプが点灯し、液晶モニタに⚡マークが表示されます。点滅したときは、フラッシュが充電中です。点滅が終わってから撮影します。

フラッシュの到達距離

広角（W側）：約0.2m～3.4m
望遠（T側）：約0.3m～2.0m

モードによる機能制限

モード / フラッシュ	AUTO					P A/S/M				My *
						P	A	S	M	
オート発光	○	○	○	—	○	○		—		○
赤目軽減発光	○	○	○	—	—	○		—		○
強制発光	—	○	—	—	—	○		—		○
スローシンクロ	—	—	—	○	—	○		○		○
赤目・スローシンクロ	—	—	—	○	—	○		○		○
発光禁止	○	○	○	○	○	○		○		○

○：設定可、—：設定不可　▭：初期設定

＊ 初期設定と設定できるモードは、登録した撮影モードによって変わります。

● **フラッシュが発光しない。**

→ 次の場合は発光しません。
被写体が明るいとき・ムービー撮影（P. 51）・連写＊・オートブラケット撮影（P. 64）・パノラマ撮影（P. 70）

＊ 赤目軽減発光と 赤目・スローシンクロが使えません。

● **フラッシュ自動発光時のシャッター速度について（オート発光・赤目軽減発光・強制発光）**

オレンジランプまたは マークが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度はその時点の秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。たとえば、ズーム位置がW端では1/30秒、T端では1/100秒です。

注 意

●マクロ撮影時、特にズームが広角（W）側にあるときは、画面内で光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。

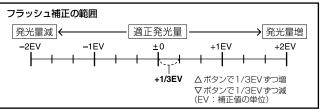
フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減することができます。
撮影する被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗差）を意図的につけたいときも、この機能が便利です。

使用可能なモード P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ補正」を選択し、発光量を多くするには、△ボタンを押し、減らすには、▽ボタンを押します。設定が決まったら、㊊ボタンを押します。再度、㊊ ボタンを押すとメニューが終了します。

フラッシュ補正の範囲

初期設定： ±0

注 意

- シャッター速度が速い場合は、フラッシュ補正の効果が十分に得られないことがあります。

スポット測光（測光の範囲を選択する）

被写体の明るさを測る方法には、デジタルESP測光・スポット測光の2種類があります。

デジタルESP測光：画面の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます。

スポット測光：AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、中央部の被写体を適当な露出にします。また、「スポット+マクロ」に設定すると、被写体に近づいてスポット測光ができます。

使用可能なモード AUTO P A/S/M My 動画

1 「スポット」または「スポット+マクロ」が表示されるまで、 ボタンを繰り返し押します。

- 何も操作をしないで約 2 秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

スポット測光

2 撮影します。

初期設定：デジタルESP

マクロ撮影（近くのものを撮る）

マクロ撮影では、ズームをもっとも望遠(T)側にして、被写体に30cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。
また、「スポット+マクロ」に設定すると、画面中央部（AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体が適正露光で撮影され、きれいな画像が撮れます。(P. 59)

通常撮影で撮った画像

マクロで撮った画像

使用可能なモード AUTO P A/S/M My

1 「マクロ」または「スポット+マクロ」が表示されるまで、ボタンを繰り返し押します。

- 何も操作をしないで約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

ボタン

マクロモード

2 液晶モニタを見ながら撮影します。

マクロ撮影距離
広角（W側）：0.2m ～0.5m
望遠（T側）：0.3m～0.5m

初期設定：デジタルESP

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影できます。三脚を使って記念写真を撮るときなどに便利です。

使用可能なモード AUTO 🅟A/S/M My 🎥

1 **AUTO PA/S/M My ：**
トップメニューから「セルフタイマー／リモコン」→「セルフタイマー」を選択し、Ⓞボタンを押します。
🎥：
トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー／リモコン」→「セルフタイマー」を選択し、Ⓞボタンを押します。

- 再度、Ⓞボタンを押すとメニューが終了します。

2 **撮影します。**

- セルフタイマーが作動します。
- セルフタイマー/リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒点滅した後シャッターが切れます。
- ムービーの場合、約12秒後に撮影が開始されます。ムービー撮影を終えるには、再度シャッターボタンを押します。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、Ⓞボタンを押します。セルフタイマー／リモコンランプが消灯します。

初期設定：オフ

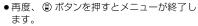
注 意

- セルフタイマーは、設定クリア（P. 94）をオフにしても、電源を切ると保持されません。
- セルフタイマーは、撮影が終わると自動的に解除されます。
- セルフタイマーを使ってムービー撮影をした場合、撮影可能秒数まで撮りきると撮影は自動的に終了します。
- セルフタイマーを使って、連写撮影はできません。

リモコン操作

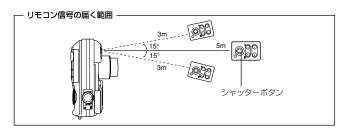
リモコンを使ってカメラの操作ができます。記念写真を撮るときなどに便利です。また、夜景撮影などカメラに触れないでシャッターを切りたい場合に、シャッターボタンがわりに使えます。

使用可能なモード AUTO P A/S/M My

1 AUTO P A/S/M My ：
トップメニューから「セルフタイマー／リモコン」→「リモコン」を選択、 ボタンを押します。
：
トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー／リモコン」→「リモコン」を選択し、 ボタンを押します。
- 再度、 ボタンを押すとメニューが終了します。

2 **リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのシャッターボタンを押します。**
- カメラのセルフタイマー/リモコンランプが点滅し、約3秒後にシャッターが切れます。
- リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順1に従って、設定を「オフ」にしてください。

初期設定：オフ

リモコン信号の届く範囲

4 撮影の応用

ヒント

● **リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー/リモコンランプが点滅しない。**
→ カメラから離れすぎているためリモコン信号が届いていません。リモコン信号が届くところに移動して、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書に従って、チャンネルを変えてください。

● **再生モードでリモコンを使いたい。**
→ テレビにつないでプレゼンテーションツールとして活用できます。
→ 撮影した画像を順番に再生することができます。
→ インデックス再生やクローズアップ再生ができます。

注 意

●リモコン受信窓に強い光があたると、リモコン信号の届く範囲内であっても、撮影ができなくなることがあります。
●リモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコン信号の受信状態が悪くなると、連写が終了してしまうことがあります。
●リモコンを使っての再生方法については、リモコンの取扱説明書をお読みください。

連写機能

連続撮影（連写）には、連写・AF連写・オートブラケットの3種類があります。連写は、メニューのドライブモードを切り換えることで設定できます。

ドライブモード

単写　：1コマだけ撮影されます。
連写　：約1コマ／秒で最大3枚（HQモード時）の連写ができます。ピント・露出（明るさ）・ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます。
AF連写：1コマごとに、ピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。
BKT　：オートブラケット撮影をします。（P. 65）

連写・AF連写をする

使用可能なモード　P A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「連写」「AF連写」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。**

2 **撮影します。**
- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

オートブラケット撮影（1コマごとに露出を自動的に変えて連写する）

カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。オートブラケット撮影では、1コマごとに露出を変えて撮影できます。変化させる露出差は、メニューで選択します。ピントは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が±1.0、X3 の場合

−1

0

＋1

使用可能なモード　P A/S/M　My

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「BKT」を選択して、▷ボタンを押します。

2 △▽ボタンを押して、コマごとの露出（明るさ）の段階（±0.3、±0.7、±1.0）を選択し、▷ボタンを押します。

3 △▽ボタンを押して、撮影枚数（x3、x5）を選択し、㊞ ボタンを押します。

- 画像サイズと画質の組み合わせにより、x3しか選択できない場合があります。
- ㊞ ボタンを 2 回押すとメニューが終了します。

4 撮影します。

- 設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

モードによる機能制限

モード / ドライブモード	シーンモード	P	A	S	M	My*
単写	○	○	○		○	○
連写	○	○	○		○	○
AF連写	―	○	○		○	○
BKT	―	○	○		―	○

○：設定可、―：設定不可、▭：初期設定
＊ 設定できるモードは、登録した撮影モードによって変わります

注 意

- 画質モードがTIFFのとき、連写・AF連写・オートブラケット撮影はできません。(P. 73)
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと、続けて次の撮影をすることはできません。
- 連写中に電池残量がなくなると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- 連写時のシャッター速度は最長1/30秒に設定されています。そのため暗い被写体ではフラッシュが発光します。
- 連写撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかることがあります。

マイモード登録

撮影の機能を自由に設定して登録しておくことができます。また PA/S/M モードで使用中に、現在の設定をそのまま「現設定」として登録することもできます。なお、このマイモードが適応される項目については、P. 69の表をご参照ください。

使用可能なモード PA/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「マイモード設定」を選択して、▷ ボタンを押します。**

2 **△▽ ボタンを押して設定したい機能を選択し、▷ ボタンを押します。**

現設定　：今、使用している設定をそのまま登録できます。

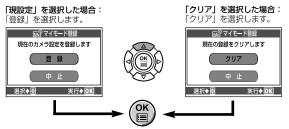
クリア　：現在、登録されている設定を初期設定に戻します。

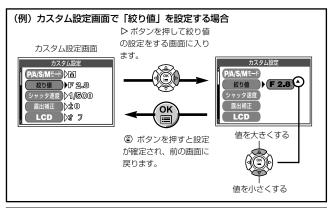
カスタム：ひとつずつ機能を設定します。手順4へ。

3 **「現設定」と「クリア」をそれぞれの「マイモード登録」画面で設定します。設定を終えたら、OK ボタンを押します。手順7へ。**

- 設定をやめたい場合は、「中止」を選択します。

「現設定」を選択した場合：
「登録」を選択します。

「クリア」を選択した場合：
「クリア」を選択します。

4「カスタム」を「カスタム設定」画面で設定します。△▽ボタンを押して設定したい機能を選択し、▷ボタンを押します。

5 △▽ボタンを押して設定を変更し、㊖ボタンを押して設定を保存します。
- 他の項目を変更するには、手順4、5を繰り返します。

6 すべての設定が完了したら㊖ボタンを押し、「カスタム設定」画面から抜けます。このとき設定の登録が完了します。

7 ㊖ボタンを2回押すとメニューが終了します。

注 意

- 「現設定」のズームの位置は、38／50／70／114mmの設定値のうち、一番近い値に設定されます。

マイモードが適応される項目とその初期設定

設定項目	初期設定	参照ページ
P/A/S/Mモード	P	P. 40
絞り値	F2.8	P. 48、50
シャッタ速度	1/500	P. 49、50
露出補正	±0	P. 77
LCD*1	オン	―
ズーム位置*2	38mm	P. 53
フラッシュ	オート	P. 54
スポット／マクロ	オフ	P. 59、60
セルフタイマー／リモコン	オフ	P. 61、62
ドライブ	単写	P. 64
ISO感度	オート	P. 76
フラッシュ補正	±0	P. 58
デジタルズーム	オフ	P. 53
画質モード	HQ	P. 73
ホワイトバランス	オート	P. 78
シャープネス	標準	P. 79
コントラスト	標準	P. 79

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 MY モードでのズーム位置の設定は、38/50/70/114mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmフィルムの換算値です）

パノラマ撮影

当社標準xDピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が行えます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

使用可能なモード P A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「パノラマ」を選択して、▷ ボタンを押します。**

2 **十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右より1方向選択します。**
- つなげる方向が表示されます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

3 **被写体の端が重なるようにして、撮影します。**
- ピント・露出・ホワイトバランスは1枚目で決定されます。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

4 撮影の応用

端の枠に前に撮影した画像の合わせるべき部分は、残りません。撮影時には、枠の位置の画像を覚えておき、次のコマの枠の画像と同じになるよう気を付けてください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

4 パノラマ撮影を終わるときは、㊐ ボタンを押します。
- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注 意

- パノラマ撮影では、フラッシュ、連写は使えません。
- 10枚撮り終えると、警告画面が出ます。
  それ以上は撮影できません。

- 当社標準xDピクチャーカード以外のカードでは、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影をすると、合成するときにパソコンがメモリ不足になることがあります。
- TIFFでパノラマ撮影をすると、SHQで記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマ撮影は解除され通常の撮影モードに戻ります。

合成ツーショット撮影（2コマの画像を合成する）

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「合成ツーショット」を選択して、▷ボタンを押します。**

2 **1枚目を撮影します。**
- 撮影した画像は、合成時には左側に配置されます。
- 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは㊞ボタンを押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。

3 **続けて2枚目を撮影します。**
- 撮影した画像は、合成時には右側に配置されます。

注 意

- 合成ツーショット撮影中は、次の機能は使えません。
  ー 連写／AF連写／オートブラケット撮影、パノラマ撮影
- TIFFで合成ツーショット撮影をすると、SHQで記録されます。

画質モード

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像サイズ、またカードへの記録可能枚数については下記の表をご参照ください。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。	きれい ↑	大きい ↑
SHQ	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。		
HQ	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。		
SQ1 SQ2	SHQやHQより小さい画像サイズを選べるモードです。SQ2には、3つの画像サイズがあります。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて、選んでください。	↓ 普通	↓ 小さい

静止画画質モード

カードの記録可能枚数は目安です。

画質モード	画像サイズ	圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数	
				32MB	64MB
TIFF	2560x1920	非圧縮	TIFF	2	4
SHQ	2560x1920	低圧縮	JPEG	13	26
HQ	2560x1920	標準	JPEG	26	52
SQ1	2048x1536	標準	JPEG	30	61
SQ2	1600x1200	標準	JPEG	66	132
SQ2	1280x960	標準	JPEG	104	209
SQ2	1024x768	標準	JPEG	153	306
SQ2	640x480	標準	JPEG	199	398

ムービー画質モード

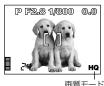
カードの記録可能秒数は目安です。

画質モード	画像サイズ	カードの記録可能秒数
HQ	320x240 (15コマ/秒)	1度の撮影で最大16秒間記録できます。
SQ	160x120 (15コマ/秒)	1度の撮影で最大70秒間記録できます。

静止画の画質モードを選択する

使用可能なモード AUTO / P A/S/M / My

1 トップメニューから「画質モード」→「TIFF」「SHQ」「HQ」「SQ1」「SQ2」から選択します。

- TIFFを選択したいときは、モードダイヤルをP A/S/M My にして操作します。
- SQ2の画像サイズを選択したいときは、モードダイヤルをP A/S/M My にして操作します。

2 △▽ボタンを押して画質モードを選択します。
SQ2を選択した場合：▷を押します。
SQ2以外を選択した場合：手順4へ進みます。

3 △▽ボタンを押して、画像サイズを選択し、OKボタンを押します。

4 OKボタンを押して選択を確定します。再度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定: HQ

ムービーの画質モードを選択する

使用可能なモード

トップメニューから「画質モード」→「HQ」「SQ」から選択し、㊐ボタンを押します。

初期設定: HQ

㊐ボタン

ヒント

● **画像サイズ**
画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントする時は、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに保存できる枚数は少なくなります。

● **画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
撮影した画像をパソコンで見る際に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。例えば、640x480の画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が640x480のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上(1024x768など)になると、モニタの一部にしか表示されません。

● **圧縮率**
TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

● **ファイル形式（P. 73）**
このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります。（ムービーはモーションJPEG(mov)形式）

注 意

●記録可能枚数／秒数は画質モード、カードの容量、またはプリント予約の有無によって変わります。
●撮影可能枚数は、撮影対象によって容量が異なるため、撮影を行っても減らなかったり、画像を削除しても増えないことがあります。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて画像にはノイズが増えます。

使用可能なモード　P A/S/M　My　動画

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ISO感度」の順に選択し、撮影条件に合わせて「オート」「80」「160」「320」の中から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

オート：被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。

80/160/320：通常80は、日中の撮影に最適でシャープな画像を得ることができます。感度が高くなるにつれて同じ光量でもより速いシャッター速度が使えます。

OK ボタン

ISO感度

モードによる機能制限

モード / ISO感度	P A/S/M P	A	S	M	My *	動画
オート	○		—		○	○
80	○		○		○	○
160	○		○		○	○
320	○		○		○	○

○：設定可、—：設定不可　□：初期設定

＊初期設定と設定できるモードは、登録した撮影モードによって変わります。

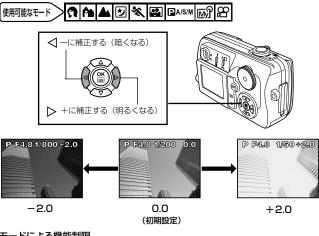
注意

- ISO感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- ISO感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISO感度がオートのとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートのとき、被写体が遠くフラッシュが届かない場合、自動的に感度が上がります。

露出補正

十字ボタンを使って、露出を手動で微調整できます。撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。

モードによる機能制限

	A/S/M				*	
	P	A	S	M		
○	○			―	○	○

○：設定可、―：設定不可

＊ 初期設定と設定できるモードは、登録した撮影モードによって変わります。

● 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆にーに補正すると効果的です。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球のひかりがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、光源による色の違いを見たままの色に表現することができます。

使用可能なモード P A/S/M My 🎥

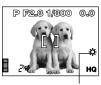
P A/S/M My：
トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「ホワイトバランス」を選択し、「晴天」「曇天」「電球」「蛍光灯」から撮影状況に合わせて設定し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

🎥：
トップメニューから「ホワイトバランス」→「プリセット」→「☼ 晴天」「☁ 曇天」「☼ 電球」「蛍光灯」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

OK ボタン

ホワイトバランス

オート　：光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。
☼ 晴天　：晴天時の撮影
☁ 曇天　：曇天時の撮影
☼ 電球　：電球の光りのもとでの撮影
蛍光灯　：蛍光灯の光りのもとでの撮影

初期設定：オート

注 意

- 通常はホワイトバランスは「オート」で使用することをおすすめします。
- 特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- ホワイトバランスを使って撮影した場合は、必ず撮影画像を再生して色を確認してください。

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

ソフト：画像の輪郭がソフトになります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。

標準　：画像の輪郭がシャープになります。通常はプリントなどの鑑賞用に適しています。

ハード：輪郭がより強調され画像が鮮やかに見えますが、ノイズが目立つ場合もあります。

使用可能なモード　P A/S/M　My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「シャープネス」→「標準」「ソフト」「ハード」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

OK ボタン

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

ハイ：明暗の差がはっきりとつけられ、メリハリのある画質になります。

標準：ハイとローの中間の階調になります。

ロー：明暗の差があまりなく比較的柔らかい感じの画質になります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。

使用可能なモード　P A/S/M　My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「コントラスト」→「ハイ」「ロー」「標準」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

静止画の再生

1コマ再生

撮影した画像（1コマ）を再生します。

1 レンズバリアを閉じた状態で、◎ ボタンを押します。

- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 他の画像を再生するには、十字ボタンを使います。

- ムービーには 🎥 マークがついています。（P. 85）

3 再生をやめるときは、◎ ボタンを押します。

- 液晶モニタが消灯して、電源が切れます。

簡単再生（Quick View）

撮影モードのままで再生できます。撮影した画像をすぐに見たいときに便利です。また、簡単再生で表示された画像は、再生モードで表示された画像と同じように扱えます。

使用可能なモード AUTO P A/S/M My

1 撮影モードのままで、◎ ボタンを素早く2回続けて押します。

- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
- 1コマ再生と同様に、十字ボタンを使って他の画像を再生できます。

2 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しします。

- 撮影モードに戻り、撮影することができます。

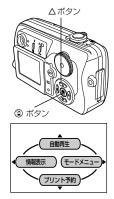
自動再生

カードに記録されている静止画像を、１枚ずつ自動的に再生させることができます。
ムービー画像は、最初のフレームが静止画と同じように再生されます。

1 静止画を表示させます。

2 ㊍ ボタンを押します。

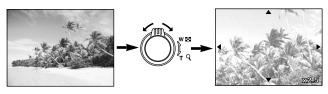
3 △ ボタンを押すと、自動再生が始まります。

4 ㊍ ボタンを押すと、終了します。

●長時間に渡って自動再生を行う場合には、ACアダプタのご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、電源が切れます。
●自動再生は、㊍ ボタンを押すまで繰り返されます。

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を拡大することができます。ズームレバーをT側に回すごとに、画像が1.5倍〜4倍に拡大されます。

1 十字ボタンで拡大したい画像を表示します。
- 🎥 マークのついた画像は、拡大できません。

2 ズームレバーをT側（🔍）にまわします。
- 拡大すると、画面に◀／▶／▲／▼が表示されます。十字ボタンで上下左右にスクロールできます。

ヒント

- **元の大きさに戻したい。**
  → ズームレバーをW側にまわします。
- **別の画像を表示したい。**
  → ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻してから、十字ボタンを使って拡大したい画像を選びます。

注 意

- クローズアップ再生中に自動再生を行なうと、クローズアップ再生は解除されます。
- 拡大した状態で、画像を保存することはできません。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。見たい画像を素早く探したいときに便利です。また、分割数の変更ができます。

1 1コマ再生します。(P. 80)

2 ズームレバーをW側（▦）にまわします。
- インデックス再生になります。

3 十字ボタンを押して画像を選択します。
- 選択されている画像が緑の枠で囲まれます。

■ インデックス再生中の十字ボタンの働き

◁ ： 前のコマへ移動
▷ ： 次のコマへ移動
△ ： 左上の画像の前のインデックスを表示
▽ ： 右下の画像の次のインデックスを表示

4 ズームレバーをT側にまわすと、1コマ再生に戻ります。
- 緑の枠で選択されていた画像が、1コマで表示されます。

インデックス表示の分割数を変更する

インデックス再生時に表示される分割数を変更できます。

1 トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「インデックス表示」を選択して、▷ボタンを押します。

2 △▽ボタンを押して「4」「9」「16」から選択し、Ⓞボタンを押します。再度Ⓞボタンを押すと、メニューが終了します。

4分割に設定した場合

6 再生

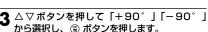
回転再生

カメラを縦に構えて撮影した場合の画像は、横向きに表示されます。このような場合は回転再生を使って画像を縦向きにすることができます。時計方向（+90゜）、反時計方向（−90゜）の回転が可能です。

1 **十字ボタンで回転したい画像を表示します。**

- マークのついた画像は、回転できません。

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「再生」→「回転表示」を選択して、▷ ボタンを押します。**

3 **△▽ ボタンを押して「+90゜」「−90゜」から選択し、 ボタンを押します。**

- 回転した画像が保存されます。
- 再度 ボタンを押すと、メニューが終了します。

注 意

- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- プロテクトのかかった画像は回転再生ができません。（P. 88）

6
再生

ムービーの再生（ムービープレイ）

撮影したムービーを再生したり、編集したりすることができます。

1 **十字ボタンで🎥マークのついた画像を表示します。****(P. 80)**

2 **ボタンを押してトップメニューを表示させます。**

3 **△ボタンを押します。**
- 「ムービープレイ」画面が表示されます。

4 **△▽ボタンを押して、「ムービー再生」「インデックス作成」から選択します。**
ムービー再生：ムービーを再生します。
インデックス作成：ムービーを9分割して一つの画面に表示します。（P. 87）

6

再生

5 Ⓞ **ボタンを押すと、再生が始まります。**
- 最後まで再生が終わると、ムービーの先頭に戻ります。

6 Ⓞ **ボタンを押します。**
- 「ムービー再生」画面が表示されます。

7 △▽ **ボタンを押して、項目を選択します。**

再生　　：もう1度再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止　　：再生を中止します。

8 Ⓞ **ボタンを押して選択した項目を実行します。**
- 「コマ送り」を選択したときは下記の操作を行います。
- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁ ボタンを押します。

■「コマ送り」を選択したときの操作方法

△ ：ムービーの先頭のコマを表示します。
▽ ：ムービーの末尾のコマを表示します。
▷ ：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
◁ ：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
Ⓞ ：「ムービー再生」画面が表示されます。

注 意

- ムービーを再生するためのアクセスにかかる時間は、ムービーの撮影時間や画質モードによって異なります。カードからカメラへ画像の読み出しをしている間は、カードアクセスランプが点滅します。

インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9分割して一つの画面に表示（インデックス作成）することができます。
インデックス作成された画像は、ムービー撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。（保存時の画質モードについては以下の表を参照）

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ2 （1024 x 768）
SQ	SQ2 （640 x 480）

5 (手順1～4についてはP. 85をご覧ください。)
Ⓞ ボタンを押します。
- 「インデックス作成」画面が表示されます。
- アクセス中は、カードアクセスランプが点滅します。

6 △▽ボタンを押して「新規作成」「中止」から選択します。
新規作成：作成したインデックス画像がカードに記録されます。
中止：インデックス作成を中止します。

7 Ⓞ ボタンを押して選択した項目を実行します。
- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁ボタンを押します。

注 意
- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- カードの空き容量がない場合、インデックス作成はできません。

プロテクト

画像を誤って消さないようにするために、その画像にプロテクト（保護）をかけることができます。

1 プロテクトをかけたい画像を表示します。

2 O╖ ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。

- 画像にプロテクトがかかると、 O╖ マークが表示されます。
- プロテクトを解除するには、再度 O╖ ボタンを押します。

注 意

- プロテクトされた画像は、1コマ消去／全コマ消去できませんが、フォーマットをするとすべて消去されます。

画像の消去

撮影した画像を消去することができます。
再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像全てを消去する全コマ消去があります。

注 意

●消去した画像は、復旧することはできません。

1コマ消去

再生している画像を消去します。他の画像も消去したいときには、1コマ消去を繰り返します。

1 消去したい画像を表示します。

● 画像にプロテクト(P. 88)がかかっている場合は、まず解除してください。

2 ボタンを押します。

●「1コマ消去」画面が表示されます。

3 △ボタンを押して、「消去」を選択します。

● 消去を中止するには、「中止」を選択し、ボタンを押します。

4 ボタンを押して、1コマ消去を実行します。

全コマ消去

カードに記録されている静止画、ムービーを全て消去します。ただし、プロテクト（P. 88）されている画像は消去できません。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」を選択します。**

2 **▷ ボタンを押します。**
- 「カードセットアップ」画面が表示されます。

3 **△ ボタンを押して「全コマ消去」を選択し、OK ボタンを押します。**
- 「全コマ消去」画面が表示されます。

全コマ消去
消 去
中 止
選択 実行 OK

4 **△ ボタンを押して、「消去」を選択します。**
- 全コマ消去を中止するには、「中止」を選択し、OK ボタンを2回押します。

5 **OK ボタンを押して、全コマ消去を実行します。**
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。

静止画の編集

撮影した静止画を編集して、別の画像として保存します。

モノクロ作成：撮影した画像からモノクロの画像を編集します。
セピア作成：撮影した画像からセピアの画像を編集します。
リサイズ：撮影した画像のサイズを640x480、または320x240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など、画像のデータ容量を小さくしたいときにお使いください。

モノクロ／セピア作成

1 **編集したい静止画を表示します。**

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「編集」→「モノクロ作成」「セピア作成」から選択します。**

3 **▷ ボタンを押します。**

4 **△▽ ボタンを押して「新規作成」を選択します。**

新規作成：撮影した画像からモノクロ／セピアの画像を作成し、カードに別の画像として保存します。
中止：作成を中止します。他の画像を編集したいときは、これを選択します。

モノクロ作成のとき

5 **㊫ ボタンを押して実行します。**
- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。

リサイズ

1 **編集したい静止画を表示します。**

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「編集」→「リサイズ」を選択します。**

3 **▷ ボタンを押します。**
- 「リサイズ」画面が表示されます。

4 **△▽ ボタンを押して画像サイズを選択します。**
640 x 480/320 x 240：撮影した画像から画像サイズを小さくした画像を作成し、カードに別の画像として保存します。
中止：リサイズを中止します。他の画像を編集したいときは、これを選択します。

5 **ボタンを押して実行します。**
- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。

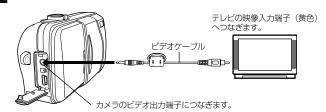
注 意

- 次の場合、編集はできません。
  - カードの空き容量がないとき
  - ムービー画像
  - TIFF で記録されている画像
  - パソコンで編集された画像

テレビ再生

ビデオケーブル（付属）を使って撮影した画像をテレビで再生することができます。

1 **カメラとテレビの電源が切れていることを確認します。**

2 **ビデオケーブルで、カメラのビデオ出力端子とテレビを接続します。**

3 **◎ ボタンを押して、カメラの電源を入れます。テレビの電源を入れて、テレビ側で映像入力を選択します。**

● 映像入力を選択する際は、お使いのテレビの取扱説明書をご参照ください。

4 **十字ボタンで表示したい画像を選択します。**

● テレビに選択した画像が表示されます。

注 意

- カメラのビデオ出力信号が、お使いのテレビの映像信号方式に合っていることを確認してください。（P. 102）
- テレビに接続した場合は、カメラの液晶モニタが自動的に消灯します。
- お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
- テレビには画像全体を表示するため、少し小さめに表示されます。それにより、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠がプリントされることがあります。

設定クリア（設定を保持する）

各機能の設定内容を保持するかどうかを選択できます。
オフ： 電源を切る直前の設定が保存されます。
オン： 電源を切ると、設定が解除されて初期設定に戻ります。

設定クリアの「オン」「オフ」の設定は再生モードや🎥モードを含め、すべてのモードで働きます

使用可能なモード P A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「設定クリア」→「オフ」または「オン」を選択し、OK ボタンを押します。再度 OK ボタン押すとメニューが終了します。

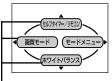
初期設定：オン

設定クリアが適応される項目

設定項目	初期設定	参照ページ
P/A/S/Mモード	P	P. 40
絞り値	F2.8	P. 48、50
シャッター速度	1/500	P. 49、50
露出補正	±0	P. 77
ズーム位置	38mm	P. 53
フラッシュ＊1	オート＊2	P. 54
スポット／マクロ＊1	オフ	P. 59、60
セルフタイマー／リモコン	オフ	P. 61、62
ドライブ	単写	P. 64
ISO感度	オート	P. 76
フラッシュ補正	±0	P. 58
デジタルズーム＊1	オフ	P. 53
画質モード	HQ	P. 73
ホワイトバランス	オート	P. 78
シャープネス	標準	P. 79
コントラスト	標準	P. 79

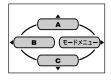
＊1 設定クリアを「オフ」にしても撮影モードによっては、設定が保持されません。
＊2 各モードによって異なります。

ショートカット設定

トップメニュー上の「モードメニュー」以外の項目（ショートカットメニュー）を、以下の表の中から任意に選び、登録することができます。使用頻度の高い機能をトップメニューに登録しておけば、途中の操作なしにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

ショートカットメニュー

登録できるメニュー機能	設定内容	参照ページ
セルフタイマー／リモコン	セルフタイマー・リモコン	P. 61、62
ドライブ	単写・連写・AF連写・BKT	P. 64
ISO感度	オート・80・160・320	P. 76
P/A/S/Mモード	P・A・S・M	P. 40
フラッシュ補正	−2〜±0〜+2	P. 58
デジタルズーム	オフ・オン	P. 53
パノラマ	−	P. 70
合成ツーショット	−	P. 72
画質モード	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2	P. 73
ホワイトバランス	オート・晴天・曇天・電球・蛍光灯	P. 78
シャープネス	ハード・標準・ソフト	P. 79
コントラスト	ハイ・標準・ロー	P. 79

ショートカットメニューを登録する

トップメニューの「A」「B」「C」の位置に当てはまる項目をそれぞれ設定します。

使用可能なモード P A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ショートカット設定」を選択します。▷ ボタンを押します。**

- 「ショートカット設定」画面が表示されます。

2 **「A」を選択して ▷ ボタンを押すと、登録できるメニュー機能項目が表示されます。**

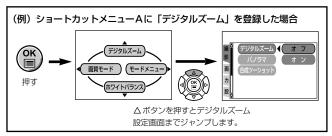
3 **△▽ ボタンで設定する機能を選択し、OK ボタンを押して確定します。**

- 「B」と「C」も同じ手順で設定します。

ショートカットメニューを使う

使用可能なモード　P A/S/M　My

1 ⓞ ボタンを押して、トップメニューを表示させます。
- 登録したショートカットメニューがトップメニュー上に表示されます。

2 各メニューのそばに表示される▲◀▼に従って、十字ボタンを押します。
- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

（例）ショートカットメニューAに「デジタルズーム」を登録した場合

△ ボタンを押すとデジタルズーム
設定画面までジャンプします。

初期設定： A：セルフタイマー／リモコン
B：画質モード
C：ホワイトバランス

情報表示

撮影／再生時に表示される情報の量を、「オン」「オフ」で切り替えることができます。情報が3秒間表示された後、通常画面に戻ります。実際に表示される内容についてはP. 16をご覧ください。

使用可能なモード　P A/S/M　My　▶

P A/S/M　My：

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「情報表示」→「オン」「オフ」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

▶ モード：

OK ボタンを押してメニューを表示します。◁ ボタンを押すと、「情報表示」が「オン」になります。

- 再生モードでは、再度 OK ボタンを押してトップメニューを表示させ ◁ ボタンを押すと、「オフ」に切り替わります。

例：再生モード（静止画）のとき

オフのとき

オンのとき

初期設定：オフ

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードを使用機器で書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードをお使いになる場合は、あらかじめこのカメラでフォーマットしてください。

使用可能なモード AUTO P A/S/M

1 AUTO ：トップメニューから「カードセットアップ」を選択します。
P A/S/M ：トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」を選択します。▷ ボタンを押します。
▶ ：トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」を選択して、▷ ボタンを押します。▽ ボタンで「フォーマット」を選択し、OK ボタンを押します。

2 △ ボタンを押して「フォーマット」を選択します。
- フォーマットを中止するには、「中止」を選択し、OK ボタンを押します。

3 OK ボタンを押して、フォーマットを実行します。
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。

注 意

- フォーマットすると、プロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消去されます。使用済みカードをフォーマットするときは、大切なデータを消さないようにご注意ください。
- 当社製以外のカード、パソコンでフォーマットしたカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときは、このカメラで再度フォーマットすることをおすすめします。

モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調節します。

使用可能なモード

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「モニタ調整」を選択し、▷ ボタンを押します。

2 明るくするには、△ ボタンを押し、暗くするには、▽ ボタンを押します。設定が決まったら、㊋ ボタンを押します。再度、㊋ ボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定：±0

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音を消すことができます。

使用可能なモード

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」→「オン」「オフ」から選択し、㊋ ボタンを押します。再度、㊋ ボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定：オン

レックビュー

撮影した直後に記録中の画像を、液晶モニタに表示するかどうかを「オン」「オフ」で選択することができます。

■ オン
撮影した画像を記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。また画像を表示中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに次の撮影に入れます。

■ オフ
記録中の画像は表示しません。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「レックビュー」→「オン」「オフ」から選択し、㊙ ボタンを押します。再度、㊙ ボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定：オン

スリープ時間

カメラを何も操作しないで、設定した時間が過ぎるとカメラは電源節約状態（スリープ）になります。スリープを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどいずれかのボタンを操作してください。

使用可能なモード P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「スリープ時間」→「30秒」「1分」「3分」「5分」「10分」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定：3分

注 意

●ACアダプタを使用しているときは、スリープはしません。
●再生モードでは、常に3分で電源が切れます。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCかPALを選択します。海外旅行先のテレビに接続して再生するときに、その地域の方式に設定を合わせてください。間違った映像（ビデオ）信号を選択して撮影すると、テレビで画像がうまく再生できないことがあります。

使用可能なモード P A/S/M My

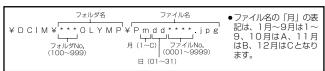
トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビデオ出力」→「NTSC」「PAL」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定：NTSC

主な国と地域のテレビ映像信号方式

NTSC　：日本、韓国、台湾、北米
PAL　：中国、ヨーロッパ諸国

ファイル名メモリー

撮影した画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名は、次のように付けられます。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は「リセット」、「オート」の二通りがありますので、パソコンに画像を取り込む際に扱いやすい方をお選びください。

■ リセット

カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.はNo.100に、ファイルNo.はNo.0001に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

■ オート

カードを入れ換えても、フォルダNo.ファイルNo.ともに前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでもファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

使用可能なモード P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ファイル名メモリー」→「リセット」「オート」から選択し、OK ボタンを押します。再度、OK ボタンを押すとメニューが終了します。

初期設定：リセット

注 意

- ファイルNo.が9999を超えると0001に戻り、フォルダNo.が変わります。（No.100 → No.101など）
- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに空き容量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影ができません。一度、ファイル名メモリーを「リセット」してからお使いください。

ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。
調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほどの時間を空けた後に実行します。

使用可能なモード P A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ピクセルマッピング」の順に選択し、▷ ボタンを押します。**

- 「スタート」と表示されます。

2 **OK ボタンを押します。**

- ピクセルマッピング実行中は画面に動作を示すバーが表示されます。
- 再度、OK ボタンを押してメニューを終了します。

注 意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ず再度このチェックを行なってください。

プリント方法

カードに保存されている画像をプリントするには、以下の方法があります。

■ DPOF対応のお店またはDPOF対応のプリンタでプリント
カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を記憶させることです。
● DPOFとは？
Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。
プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントができます。ご家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能です。

■ オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400、またはその他のDPOF対応のデジタルプリンタでプリント
パソコンを使わなくても、別売のPCカードアダプタを使ってプリントできます。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

■ パソコンに接続しているプリンタでプリント
JPEGの画像を表示するソフトウェア（CAMEDIA Masterやペイントソフトなど）を使ってプリントできます。
詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

撮影時の画質モードとプリントの関係
パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点(ピクセル)の数が用いられ、dpi (dot per inch)と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モード（P. 73）をできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。(P. 98)

(例)

注 意

- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（ 凸 ）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（ 凸 ）が表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- TIFFで記録された画像は、プリントできないことがあります。
- プリント予約には時間がかかることがあります。

カードにプリント予約する

1 静止画を再生します。

- 🎥 マークのついた画像は、プリント予約できません。

2 トップメニューから「プリント予約」を選択します。

- プリント予約がされていないときには、この画面は表示されません。手順 4 にお進みください。
- すでにプリント予約があるときには、前回設定したプリント予約をすべて解除するかどうか、選択画面が表示されます。「解除する」を選択すると、プリント予約がすべて解除されます。

3 △▽ ボタンを押して「解除する」「解除しない」から選択し、Ⓞ ボタンを押します。

4 △▽ ボタンを押して「1 コマ予約」「全コマ予約」から選択し、Ⓞ ボタンを押します。

1コマ予約　：プリント枚数の設定・日付と時刻入りプリントの設定→手順5へ。

全コマ予約　：日付と時刻入りプリントの設定→手順8へ。

- 全コマ予約のときのプリント枚数は、全画像 1 枚ずつ予約されます。

5 プリント予約したい画像を、◁▷ ボタンを押して選択します。

- すでにプリント予約されているコマには、前に設定されたプリント枚数が表示されます。

6 △▽ボタンを押してプリント枚数を選択します。
- 最高10枚まで予約できます。0枚の設定は、プリント予約されません。

枚数が多くなります。

枚数が少なくなります。

他のコマをプリント予約するには、◁▷ボタンを押します。

7 枚数の設定が終了したら、㊞ボタンを押します。
- 「日時プリント」画面が表示されます。

8 △▽ボタンを押して「無し」「日付」「時刻」から選択し、㊞ボタンを押します。
無し：画像のみプリント
日付：画像に撮影年月日を追加してプリント
時刻：画像に撮影時刻を追加してプリント

9 予約したコマ数、プリント総枚数、日時プリントの有無を確認します。△▽ボタンを押して「予約する」を選択し、㊞ボタンを押します。
- 「予約しない」を選択すると、すべての予約設定が解除されます。

10 ◁ボタンを押すと、プリント予約を終了します。

修理に出す前にお確かめください

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない、または液晶モニタが点灯しない。		
①電池の残量がない。	❶充電した電池を入れてください。	P. 23
②電源が切れている。	❷レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	—
③寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❸電池を使用する前に室温になるまで温めてください。屋外では電池をポケットに入れるなどして温めてください。	
④パソコンに接続している。	❹パソコンとの通信時は、カメラは動作しません。	—
⑤自動的に電源が切れた。	❺カメラがスリープモードになっています。シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 102
緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している。		
①電池の残量がない。	❶充電した電池を入れてください。	P. 23
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
①レンズバリアが閉じている。	❶レンズバリアを開いてください。	P. 26
②メモリゲージがすべて点灯している。	❷メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P. 19
③フラッシュの充電が完了していない。	❸一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから、撮影してください。	P. 56

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
④撮影後、オレンジランプが点滅している。	❹フラッシュ充電中です。オレンジランプが消えてから、撮影してください。	P. 56
⑤カードの容量がいっぱいになった。	❺カードを交換する、不要な画像を消去するなどの操作を行ってください。消去する前、大切な画像はパソコンに転送してください。	P. 23、89
⑥撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❻充電した電池と交換してください。	P. 23
⑦液晶モニタの表示が消えた。または、電池残量警告マークが表示された。	❼充電した電池と交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P. 23
画像データに記録される日時が正しくない。		
①日時が設定されていない。	❶日時設定をしてください。（お買い上げ時には日時の設定がされていません。）	P. 28
②電池を抜いて放置した。	❷再度、日時設定をしてください。	P. 28
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう。		
①設定を保持しないで、電源を切っている。	❶設定クリアをオフにしてください。	P. 94

原因	こうしましょう	参照ページ
画面表示が日本語でなくなった。		
①メニュー表示が英語になっている。	❶言語を日本語に設定してください。	P. 30
フラッシュが発光しない。		
①フラッシュが発光禁止になっている。	❶ ボタンを押して、フラッシュを発光禁止以外にしてください。	P. 56
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は、強制発光にしてください。	P. 56
③連写が設定されている。	❸単写に設定してください。	P. 64
④ モードで撮影している。	❹モードダイヤルを モード以外に設定してください。	P. 38
⑤パノラマ撮影が設定されている。	❺パノラマ撮影を解除してください。	P. 70
液晶モニタ上で再生ができない。		
①撮影モードになっている。	❶レンズバリアを閉じて、 ボタンを押してください。	P. 26
②カードに画像が記録されていない。	❷撮影してから再生してください。	P. 45
③テレビに接続している。	❸テレビに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。	P. 93
液晶モニタが見にくい。		
①液晶モニタの明るさが適切でない。	❶見やすいように調整してください。	P. 100
②太陽光の下である。	❷太陽の光を手などでさえぎるか、移動して太陽の光をさけてください。	―

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
①フラッシュがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光に設定して、発生頻度を大幅に軽減できます。（フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P. 54
ピントの合っていない写真ができた。		
①シャッターボタンを押すときにカメラぶれが起こってしまった。	❶カメラが動かないようにカメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P. 41
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P. 44
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	P. 115
④セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した。	❹カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P. 61
撮影した画像が明るすぎる。		
①露出が＋に補正されていた。	❶露出補正を0に設定してください。	P. 77
②被写体が明るすぎた。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P. 77

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い。		
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P. 41
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。	P. 56
③フラッシュが発光禁止になっている。	❸フラッシュを発光禁止以外にしてください。	P. 56
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュ補正を+に設定するか、スポットにして撮影してください。	P. 58、59
⑤連写で撮影した。	❺連写では、シャッター速度の最長秒時が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P. 64
室内で写した写真の色がおかしい。		
①照明の色が影響した。	❶照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P. 78
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、フラッシュを強制発光にして撮影してください。	P. 56
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定しなおしてください。	P. 78
画像の一部が欠けてしまった。		
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気を付けてください。	P. 41

原因	こうしましょう	参照ページ
画像のハレーション部に不自然な色がつく。		
① 紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	❶画像をパソコンでレタッチしてください。フォトレタッチソフト（Photoshop、Paint Shop Proなど）を使用し、不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書でご確認ください。	ー
カメラとテレビを接続しても、テレビに映像が出ない。		
① カメラの映像出力信号の設定を間違えた。	❶使用する地域のビデオ出力の設定に合わせてください。	P. 102
② 再生モードではない。	❷レンズバリアを閉じて、◎ボタンを押してください。	P. 26
③ テレビの映像信号の設定を間違えた。	❸テレビを映像入力モードにしてください。	P. 93

カメラのお手入れ

保管の際は、必ずレンズバリアを閉じて電源を切ってください。液晶モニタも消してください。

1 **カメラの電源を切ります。**(P. 26)

2 **電池を取り出します。**(P. 23)

- ACアダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。

3 **カメラの外側**... 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注 意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

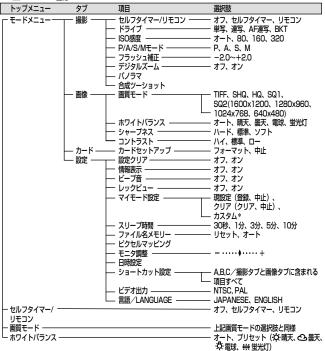
エラーコード表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードで表示します。

表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。または、カードを正しく入れなおしてください。
撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消去してください。
このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときは、カードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードは、ご使用になれません。
この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。

表示	原因	こうしましょう
画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影してから再生してください。または撮影画像の入ったカードを入れてください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約データを含む新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消去してください。
カードカバーが開いています	電池／カードカバーが開いています。	電池／カードカバーを閉めてください。

メニュー・マップ

● P A/S/M ／ My モード

*「カスタム」の選択肢は、P. 69の「マイモード設定」が適応される項目をお読みください。

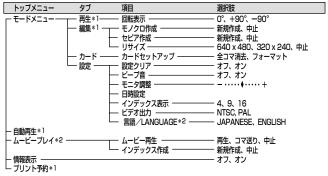
9 その他

● AUTO モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
カードセットアップ			フォーマット、中止
セルフタイマー/リモコン			オフ、セルフタイマー、リモコン
画質モード			SHQ 2560 x 1920、HQ 2560 x 1920、SQ1 2048 x 1536、SQ2 640 x 480
日時設定			

● モード

メニュー・マップ

● ▶ モード

＊1 ムービー再生時は表示されません。
＊2 静止画再生時は表示されません。

メニュー機能初期設定

<table>
<tr><th>モード
メニュー機能</th><th>AUTO</th><th></th><th>P A/S/M　My</th><th></th><th></th></tr>
<tr><td>セルフタイマー／リモコン</td><td colspan="4">オフ</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>ドライブ</td><td>ー</td><td colspan="2">単写</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>ISO感度</td><td colspan="2">ー</td><td>P・My：オート
A/S/M：80</td><td>オート</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>P/A/S/Mモード</td><td colspan="2">ー</td><td>P</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>フラッシュ補正</td><td colspan="2">ー</td><td>±0</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>デジタルズーム</td><td>ー</td><td colspan="3">オフ</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>画質モード</td><td colspan="4">HQ</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>ホワイトバランス</td><td colspan="2">ー</td><td colspan="2">オート</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>シャープネス</td><td colspan="2">ー</td><td>標準</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>コントラスト</td><td colspan="2">ー</td><td>標準</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>設定クリア</td><td>ー</td><td>オン</td><td>P A/S/M：オン
My：ー</td><td colspan="2">オン</td></tr>
<tr><td>情報表示</td><td colspan="2">ー</td><td>オフ</td><td>ー</td><td>オフ</td></tr>
<tr><td>ビープ音</td><td>ー</td><td colspan="4">オン</td></tr>
<tr><td>レックビュー</td><td colspan="2">ー</td><td>オン</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>マイモード設定</td><td colspan="2">ー</td><td>現設定</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>スリープ時間</td><td colspan="2">ー</td><td>3分</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>ファイル名メモリー</td><td colspan="2">ー</td><td>リセット</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>モニタ調整</td><td>ー</td><td colspan="4">±0</td></tr>
<tr><td>日時設定</td><td colspan="5">年月日　2002. 01. 01 00:00</td></tr>
<tr><td>ショートカット設定</td><td colspan="2">ー</td><td>A：セルフタイマー/
リモコン
B：画質モード
C：ホワイトバランス</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>ビデオ出力</td><td>ー</td><td colspan="4">NTSC</td></tr>
<tr><td>言語／LANGUAGE</td><td>ー</td><td colspan="4">日本語</td></tr>
<tr><td>インデックス表示</td><td colspan="4">ー</td><td>9</td></tr>
</table>

● 「ー」の設定は、そのモードでは設定できませんが、他のモードで設定した状態で働くものがあります。

モード別撮影機能一覧

機能＼モード	AUTO		P A/S/M * MY *	
静止画撮影	○	○	○	—
ムービー撮影	—	—	—	○
P/A/S/Mモード切替え	—	—	○	—
絞り値設定	—	—	○	—
絞り優先撮影	—	—	○	—
シャッター速度設定	—	—	○	—
シャッター優先撮影	—	—	○	—
マニュアル撮影	—	—	○	—
マイモード設定	—	—	○	—
マイモード撮影	—	—	MY のみ可能	—
ズーム	○	：不可	○	—
デジタルズーム	—	：選択不可	○	○
オートフォーカス	○	○	○	○
フォーカスロック	○	○	○	○
フラッシュ　オート発光	○	：選択不可	○	—
フラッシュ　赤目軽減発光	—	：選択不可	○	—
フラッシュ　強制発光	—	のみ可能	○	—
フラッシュ　スローシンクロ	—	のみ可能	○	—
フラッシュ　赤目・スローシンクロ	—	のみ可能	○	—
フラッシュ補正	—	—	○	—
スポット測光	○	—	○	○
マクロ撮影	○	—	○	○
セルフタイマー撮影	○	○	○	○
リモコン撮影	○	○	○	○
連写	—	○	○	—
AF連写	—	—	○	—

○：可　　—：不可

＊ P/A/S/Mモードのモード切替えによっては、使えない機能もあります。各機能のページをお読みください。

機能＼モード	AUTO	(シーンモード)	P A/S/M * 　My *	(動画)
オートブラケット撮影	—	—	○	—
パノラマ撮影	—	○	○	—
合成ツーショット	—	○	○	—
画質モード設定	○	○	○	○
ISO感度設定	—	—	○	○
露出補正	—	○	○	○
オートホワイトバランス	○	○	○	○
プリセットホワイトバランス設定 (晴天), (曇天), (電球), (蛍光灯)	—	—	○	○
シャープネス設定	—	—	○	—
コントラスト設定	—	—	○	—
ショートカット設定	—	—	○	—
設定クリア	—	○	My ：選択不可	○
情報表示	—	—	○	—
ビープ音	—	○	○	○
レックビュー	—	—	○	—
モニタ調整	—	○	○	○
スリープ時間	—	—	○	—
ファイル名メモリー	—	—	○	—
ピクセルマッピング	—	○	○	○
ビデオ出力	—	○	○	○
言語選択	—	○	○	○

○：可　　—：不可

＊ P/A/S/Mモードのモード切替えによっては、使えない機能もあります。各機能のページをお読みください。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指示した書面を同封し、十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう、宅配便か書留小包のご利用をお願いいたします。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	
静止画	デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮、 Exif2.2対応、DPOF対応
ムービー	QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	xDピクチャーカード、16MB～128MB
記録コマ数 （32MBカード使用時）	2枚(TIFF: 2560 x 1920) 約13枚(SHQ: 2560 x 1920) 約26枚(HQ: 2560 x 1920) 約30枚(SQ1: 2048 x 1536) 約199枚(SQ2: 640 x 480)
カメラ部有効画素数	500万画素
記録画素数	2560 x 1920ピクセル(TIFF/SHQ/HQ) 2048 x 1536ピクセル(SQ1) 1600 x 1200ピクセル(SQ2) 1280 x 960ピクセル(SQ2) 1024 x 768ピクセル(SQ2) 640 x 480ピクセル(SQ2)
レンズ	オリンパスレンズ：7.8～23.4mm、F2.8～F4.8、 6群7枚(35mmフィルム換算38～114mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
絞り	W：F2.8～F8.0 T ：F4.8～F8.0
シャッター	メカニカルシャッター併用
静止画	1/2～1/1000秒（Mモード：8～1/1000秒） （夜景モード／スローシンクロフラッシュ使用時： 4～1/1000秒）
ムービー	1/30 ～ 1/8000秒
ファインダ	光学実像式ファインダ

仕様

液晶モニタ	1.5型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)、 約134000画素
フラッシュ充電時間	約5秒(常温時、新品電池使用)
オートフォーカス	TTL方式AF、コントラスト検出方式／ 焦点調節範囲：0.5m ～ ∞ (通常撮影時) 0.2 (W)/0.3 (T) ～ 0.5m (マクロ撮影時)
コネクタ	DC入力端子・USB端子・ビデオ出力端子
自動カレンダー機能	2099年まで自動修正
使用環境 温度 湿度	 0～40℃(動作時)／－20～60℃(保存時) 30～90%(動作時)／10～90%(保存時)
電源	当社製リチウムイオン電池LI-10B1個 または専用AC アダプタ（別売）
大きさ	幅99.5mmx 高さ58.5mm x 厚さ41.5mm (突起部除く)
質量	194g(電池／カード別除く)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 x 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 x 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

コントラスト検出方式 ・・・・・・・・・
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

デジタルESP測光 ・・・・・・・・・・・
(electro selective pattern)
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

バックライト ・・・・・・・・・・・・・・・・
液晶モニタを背面から照らすための光源。

露出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

Aモード••••••••••••••••••••
(aperture priority mode)
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE•••••••••••••••••••••••••
(automatic exposure)
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD ••••••••••••••••••••••••
(charge coupled device)
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。

DCF ••••••••••••••••••••••••
(design rule for camera file system)
電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF ••••••••••••••••••••••
(digital print order format)
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

EV •••••••••••••••••••••••••
(exposure value)
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO••••••••••••••••••••••••
国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(joint photographic experts group)
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をＳＨＱ/ＨＱ/ＳＱに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

Mモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(manual mode)
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC/PAL・・・・・・・・・・・・・・・・・(National Television Systems Committee/ Phase Alternating Line)
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国、台湾で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(program mode)
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

Sモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(shutter speed priority mode)
シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度にしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT (thin-film transistor) カラー液晶モニタ・・・・・・・・・・・・
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TIFF・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(tagged image file format)
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TTL (through-the-lens) 方式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

索引

英数字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページで提供しております。

オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/

より「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは **0426-42-7499**

FAX **0426-42-7486**

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9:30～21:00
土、日、祝日　10:00～18:00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

–02
VT4025